

Q3

乳児期におけるBCGワクチンの接種はいつまでに行えばよいでしょうか。

A

定期接種では、生後6カ月に達するまでにBCG接種を行うことになっています。これは、乳幼児の結核性髄膜炎や粟粒結核などの重症結核を防ぐためには、なるべく早い時期に接種する必要があるからです。しかし出生直後などでは生まれつきの免疫不全等の確認が困難な場合があり、日本小児科学会では生後3カ月以降が適切であるとしています。(参照 p80, Q5)